

## 令和6年6月 定例会（第2回）会議録（抜粋）

○16番（渡辺厚子議員） 議場の皆様、こんにちは。公明党の渡辺厚子でございます。

今回、私は、大綱1、子どもたちの安心・安全のために、中項目3点の質問をさせていただきます。

初めに、中項目1、通学路の安全確保について。

小項目1点目は、通学路合同点検についてです。本市では、木更津市通学路交通安全プログラムに基づき、小学校を2つのグループに分けて、それぞれ2年に1回の合同点検を実施しています。また、母と女性教職員の会が毎年取り組んでいる要望活動の中にも危険箇所の改善要望があります。私もPTA役員だったときに、この（通称）母女の会の点検活動で地域を歩かせていただきました。どちらも子どもたちの安全な通学を守る目的ではありますが、点検や結果回答のタイミングが異なることで点検箇所が重複することもあると思います。こうした通学路の安全のために行われている取組において、関係者の負担が軽減されることも大切ではないかと考えています。

そこで、母と女性教職員の会や合同点検の関係部署は、それぞれの点検箇所や改善結果等を把握した上で効率的に取り組まれているのか、伺います。

さらに、昨今、道路上に設置してある標識やカーブミラーが倒れて児童がけがをする事故が起きていることを踏まえ、合同点検に単発的な重点点検事項として、共通のチェック項目を加えてはと思いますが、市の見解をお聞かせください。

小項目2点目は、子ども110番についてです。

子ども110番事業は、子どもが不審者から追いかけられたり、何らかの被害に遭った、または遭いそうになったと助けを求めたとき、子ども110番の協力者がその子どもを保護するとともに、警察、学校、家庭へ連絡するなどして地域ぐるみで子どもたちの安全を守っていく仕組みです。本市でも取り組んでいる子ども110番の家は、平成8年、岐阜県可児市の小学校PTAが中心となり、事件の未然防止を目的に、子ども110番の家としてステッカーを掲示したのが始まりだそうです。そのほかにも、子ども110番の家や子ども110番連絡所など、実施主体によって異なる様々な看板を見かけます。この件で私は過去にも質問してきましたが、木更津市では金田や千束台等の地域で新興住宅地が増えていることから、新たな協力家庭や事業所が増えることが期待されるとともに、長年協力いただいた家庭の中には、事情により中止するケースもあると思います。

そこで、まず、新規の登録や継続、中止等の手続は現在どこが窓口となって行っているのか、伺います。

また、個人宅では日中不在となることを考慮しますと、地域の商店や企業、福祉施設等の協力が増すことで子ども110番の機能が一層強化されると思いますが、市の見解を伺います。

小項目3点目は、子どもの見守り事業についてです。

昨年度に導入された子どもの見守り事業は、子どもに関わる悲惨な事故を少しでも減らし、保護者の方が安心して子育てできる環境づくりのために、本市と株式会社otta及びちば興銀コンピュータソフト株式会社による協定に基づいてスタートいたしました。市のホームページによりますと、具体的には、児童が見守り端末を携帯することで、見守りスポット通過時や、スマートフォン等に専用アプリをインストールした見守り人等と擦れ違い時に児童の位置を記録し、その位置情報の履歴を保護者が確認できるサービスであるということです。このサービスは事業開始からまだ1年も経過しておりませんが、これまでの実施状況と利用者の反応、現段階で見えてきた課題や今後

の展開についてお聞かせください。

次に、中項目2、SNS利用の安全対策については、ネット犯罪から守るためのアプリについてという小項目1点の質問です。

SNS等を通じて知り合った相手に自分の裸や下着姿など不適切な画像を送信したことによる自撮り被害が全国的に増加してきています。報道によりますと、東京都が今年1月、都内の小中高校生の保護者2,000人にインターネットでアンケートを実施した、子どものスマートフォンの利用に関する調査の結果、保護者の約2割は子どもがSNS等を通じて知らない人とやり取りしたことがあると回答。内容は、顔や体の写真、動画の送受信をしたが20.3%で前年度比11%増、直接会ったが14.2%で5.7%増と前年度の調査から大幅に増え、また、きっかけの内訳ではゲームの話が40.9%で最も多く、芸能人やユーチューバー等の話が40.4%、アニメや漫画の話が36.4%と続いたそうです。

一方で、子どものスマホ利用を制限する機能を使う保護者の割合は減っていて、アプリやサイトの利用を制限するフィルタリングサービスを設定していない保護者は全体の41.7%で、前年度より3.2ポイントの増。都民安全課は、こうしたことを受けて、子どもがフルオープンに見られる環境にせず、閲覧を機能的に制限することはトラブル防止に有効であるとして設定を勧めているとのことでした。

また、学習用タブレット端末による盗撮が学校現場でも起きています。昨年12月に東京都内の小学校で複数の高学年男子児童が更衣室にタブレット端末を設置して、多数の女子児童の着替える様子を盗撮していたという事案は記憶に新しいところです。

このようなことを起こさせないために、私が現在注目しておりますSNS児童性被害防止アプリ「コドマモ」をここで紹介させていただきます。会議システムの資料をご覧ください。

コドマモは、児童による性的な自撮り被害が増える中、愛知県警が2021年秋に、被害防止策について起業家を育成するプロジェクト団体に相談したところ、社会課題解決を講義でも扱っていた藤田医科大学が名のりを上げて、子どもを守りたいという強い思いから、産官学の連携で開発されたアプリです。これは、親子が共にスマートフォンにアプリをインストールし、子どもが不適切な写真撮影をした場合、AIが自動的に検知し、子どもに注意喚起、親には通知が届きます。現在、アプリ自体は無償で提供されており、学習用タブレット端末にインストールすることで、校内の盗撮や教職員では見つけ切れないグループチャット内の悪口等の書き込みも検知され、いじめや犯罪を未然に防ぐことも期待できるそうです。

私は、SNSを利用する子どもたちをネット犯罪から守り、子ども自身を被害者にも加害者にもさせないためには、こうしたアプリを活用するなど具体的な対策を講じるべきと考えますが、市の見解を伺います。

続きまして、中項目3、学校施設の整備について。

初めに、小項目1点目として、校舎の洋式トイレについてお聞きします。

多くの公共施設が老朽化に伴う維持管理や改修を必要とされている中で、避難所でもある屋内運動場のトイレについては、既に洋式化が完了したことは評価されているものと思います。しかし、校舎やプール等のトイレは、各年度に小中学校それぞれ1校ずつの改修をしていくという現計画のペースでは、全校が完了するまでには、まだ時間を要することになってしまいます。先日、私の

ところに教育現場の方から、入学したばかりの1年生は和式トイレの利用に抵抗を感じています。洋式化は無理なのではないかというお声が寄せられました。学校トイレの洋式化については、これまでも多くの議員が推進を訴えてきました。昨年の6月議会では、草刈議員の質問に対して執行部から、限られた財源の中で計画が少しでも前倒しできるよう関係各課と調査研究してまいりたいとのご答弁がありました。

そこで、私は、現基本計画期間内に予定されていない残りの学校について、次期計画においては、特に子どもたちが最も利用する校舎トイレの洋式化を加速するべきと考えますが、市の見解をお聞かせください。

次に、小項目2点目は、遊具・運動設備等についてです。

先日、消費者庁のあるコラムが目にとまりました。それは、体育の時間や部活動など、学校生活ではスポーツをする機会が多くあります。大型で重量のある器具を使用することも少なくありませんが、これらの中には、使用、保管、運搬等の際にバランスを崩しやすいものもあり、取扱いには注意が必要です。重大な事故になりかねない危険が潜んでいることを念頭に、日頃から十分な安全管理に努めましょうという内容で、様々な事故事例も紹介されていました。言うまでもなく、子どもたちが遊びや運動で楽しく活発に利用するための設備は安心して使えなければなりません。

そこで、改めて確認したいと思います。本市では、鉄棒やブランコ等の遊具、また、サッカーゴールやバスケットゴール等の運動設備を安全に利用するための点検や修繕、更新はどのように行われているのか、伺います。

最後に、小項目3点目、防火シャッターについてお聞きします。

平成17年12月から、新設する防火シャッターには危害防止装置の設置が改正建築基準法施行令で義務付けられています。これは、防火シャッターの誤作動による事故事例を踏まえての改正で、実際に小学校で児童が亡くなるという痛ましい事故も起きてしまい、安全対策の強化が求められたからです。この改正により、防火シャッターに危害防止装置が設置されていない建物は全て既存不適格となります。こうした既存不適格を解消するために開発された、電源不要で既設のシャッターに取り付けられる装置もあり、今や危害防止装置の設置は耐震工事に次ぐ事業として多くの自治体で進められています。

そこで、本市の小中学校の防火シャッターについて、法改正前の旧基準で設置され、現在も危害防止装置がない学校は何校で、改善が必要な設備はどれくらいあるのか。また、それらを今後どのように改善し整備していくのかをお伺いしまして、最初の質問を終わります。

○教育長(廣部昌弘教育長) 渡辺厚子議員のご質問にご答弁申し上げます。

私からは、大綱1、子どもたちの安心・安全のために、中項目1、通学路の安全確保について、お答えいたします。

初めに、通学路合同点検についてでございますが、木更津市通学路交通安全プログラムに基づく通学路合同点検と母と女性教職員の会が行う環境点検は、ともに通学路の安全確保を目的として活動しておりますので、点検箇所や要望が重複することもございますが、様々な視点から危険箇所の有無を確認することで、より安全な通学路の実現につながるよう取り組んでいるところでございます。

なお、通学路交通安全プログラムに基づく通学路合同点検の結果は市ホームページで公開して

おり、改善された箇所が母と女性教職員の会や他団体の方にも認知していただけるよう周知に努めております。

また、通学路合同点検に単発的な重点点検項目を加えてはどうかのご提案につきましては、今後、社会情勢や環境の変化により重点的に点検する項目が生じた際は、母と女性教職員の会や関係機関と連携し、効果的な点検及び改善がなされるよう、柔軟に取り組んでまいります。

次に、子ども110番についてでございますが、子ども110番の家の登録、継続、中止等の確認や手続は小学校が窓口になって実施しているところが多く、PTAや地域の方々のご協力をいただきながら運用している学校もございます。子ども110番の家は、地域全体で子どもたちを犯罪から守る手段の一つと考えており、ご家庭に限らず、事業所等も含めた地域の安全ネットワークの整備に努めていくことが重要であると認識しております。教育委員会といたしましては、今後も地域の関係団体等と連携しながら、地域全体の安全意識の向上を図ってまいります。

次に、子どもの見守り事業についてでございますが、昨年9月、小学校3校に導入してから、現在は小学校14校においてサービスを提供しております。現在の導入校における平均利用率は48.5%で、利用者からは安心して便利であるとの意見がある一方、協力者となる見守り人を増やすことが課題であると認識しています。本取組は地域住民や地域商店、民間企業なども参画できる仕組みであり、地域一体となって推進することによって、子どもにとっても保護者にとっても、より安心・安全なまちづくりが進められるものと認識しております。今後は、きさらづ特認校への導入も検討し、全小学校への拡大を目指してまいります。

次に、中項目2、SNS利用の安全対策について、お答えいたします。

ネット犯罪から守るためのアプリについてでございますが、議員おっしゃいますように、子ども自身を加害者にも被害者にもさせない、安心して楽しく学べる学習環境づくりは非常に重要であると認識しております。現在、インターネット犯罪から子どもたちを守る手段として、児童生徒へ貸与しているタブレットからは、主なSNSをはじめ、有害サイトへアクセスできないよう制限しており、技術的なアクセス制限に加え、各学校では、SNSをはじめ、インターネット利用に関する情報モラル教育に取り組んでいるところでございます。

議員からご提案いただきましたアプリにつきましては、危険を察知する機能が充実しておりますので、他の機能等を確認しながら、導入の実現性について調査研究してまいります。

次に、中項目3、学校施設の整備について、お答えいたします。

次代を担う子どもたちの心身ともに健やかで生き活きとした成長を地域社会全体で支え、見守るまちづくりを進めるため、子どもたちが1日の大半を過ごす学校の環境づくりは、大変重要であると認識しております。しかしながら、施設の老朽化の進行や生活スタイルの変化への対応など、施設整備が急がれる状況にございます。

議員お尋ねの校舎の洋式トイレについてでございますが、慣れない和式トイレの使用が負担であることが保護者や学校からも聞こえてきていることや、過去の市議会定例会でもトイレの洋式化へのご要望をいただいていることなどから、重要な課題の一つとして認識しているところでございます。木更津市第3次基本計画終了時の令和8年度末における校舎のトイレ洋式化率は、小学校で約81%、中学校で87%、全体で約83%を見込んでおりますが、次期基本計画におきましては、

より100%に近づけるよう、重要な施策として取り組んでまいります。

私からは以上でございます。

○**資産管理部長(品川昭和部長)** 私からは、大綱1、中項目3について、お答えいたします。

初めに、遊具・運動設備等についてでございますが、点検につきましては、小中学校遊具等保守点検業務委託及び小中学校体育館体育器具保守点検業務委託により、それぞれ年1回実施しております。また、修繕及び更新につきましては、点検結果による危険の度合いや日々寄せられます不具合の報告により、適宜対応しているところでございます。

次に、防火シャッターについてでございますが、危害防止装置のついていない既存不適格である防火シャッターにつきましては、これまで、耐震改修工事等の内部改修時に極力、新基準に適合するよう改修してまいりましたが、令和6年5月末日現在、小学校は4校で17基、中学校は6校で30基が残っている状況でございます。今後の整備方針につきましては、個々のシャッターの仕様を把握の上、メーカーに改修方法について相談し、改善に向け検討してまいります。

私からは以上でございます。

○**16番(渡辺厚子議員)** ご答弁ありがとうございました。

それでは、再質問させていただきます。

最初に、通学路の安全確保についての合同点検でございますが、ご答弁で、通学路合同点検の結果は市ホームページで公開していて、改善された箇所が母と女性教職員の会や他団体の方にも周知に努めているということでした。PTA役員や母と女性教職員の会の担当者との情報の周知共有は各学校で取り組んでいるのか、または学校教育課が担っているのか、お聞かせください。

○**教育部長(小高幸男部長)** 情報の周知共有は各学校で行っていただいているものと認識しております。今後も改善状況等を共有し、さらに効率的に活動していただけるよう取り組んでまいります。

○**16番(渡辺厚子議員)** 各学校でということ。何で今回これをお聞きしたかといいますと、PTA役員も自治会役員と同様に成り手不足ということで選出が難しい状況にあるようです。少しでも負担を少なくでき、また、なっていた役員さんには活動の手応えを感じていただくためにも、この合同点検で改善された場合は、可能な限り共有されることが望ましいなと思ってお聞きしました。

それで、もう一つお聞きしました、通学路合同点検に標識やカーブミラーの点検を加えてはどうかという提案については、今後、社会情勢や環境の変化により、重点的に点検する項目が生じた際にはというお話でしたが、それは国や県からの指示があった場合にということなんでしょうか。

○**教育部長(小高幸男部長)** 国や県からの指示があった場合はもとより、他市町村を含めた通学路の状況変化等を踏まえて適切に対応してまいります。

○**16番(渡辺厚子議員)** 適切に対応ということですが、標識やカーブミラーなどの点検を今後、市独自で行うということは可能でしょうか。

○**教育部長(小高幸男部長)** 警察署や市道以外の道路管理者との調整が必要となるため、市独自で行うことは想定しておりませんが、重点的に点検する項目が生じた際は、関係機関と協議し、効果的な点検となるよう努めてまいります。

○16番(渡辺厚子議員) 先ほどもちょっと触れましたが、先月、大分県日田市で道路標識が倒れて、下校途中の小学1年生がけがをした事故を受けまして、県警察本部は、通学路にある標識のうち設置から10年以上がたつものについて近く緊急点検を始めるそうです。これは報道による記事で見ました。たしか私の記憶では数年前にも、各地の標識やカーブミラーが犬の散歩中に尿をかけられたことによる、その繰り返しで腐食することによって、それが原因で倒壊したと思われることが問題視されたことがあったと記憶しております。ポール状の設備が倒れてしまうというのは、いろいろな理由や背景があると思いますし、実際、町中に設置されているものなので、たくさんあるので、どの程度点検ができるかは分かりませんが、最近、事故が起きたまちの情報を確認するなどして、本市でも点検ができないか、関係機関と協議をしていただけたらと思います。

それでは、次に移ります。子ども110番についてです。

先ほどのご答弁で、子ども110番の家の登録、継続、中止等の確認や手続は、小学校が窓口になっているところが多いと。PTAや地域の方々の協力をいただきながら運用している学校もあるというお話でした。教職員の働き方改革も求められております。そうした中で、業務量の軽減によって子どもたちと関わる時間を増やすためにも、子ども110番の家の運用の在り方についても再検討の必要があるかもしれません。ご答弁では、今後も地域の関係団体等と連携しながら安全意識の啓発を図ってまいりたいとありましたが、青少年育成連絡会議やまちづくり協議会など、地域の諸団体の活動を所管する部署との協議も必要ではないかと思いますが、いかがでしょうか。

○教育部長(小高幸男部長) 子どもたちの安心・安全を守るために、子ども110番の家を含めた地域全体の安全意識の高揚は重要であると認識しております。今後は、議員ご指摘のとおり、関係団体との連携について検討してまいりたいと考えております。

○16番(渡辺厚子議員) よろしくお願ひします。

それで、実施主体の業務負担は、先ほども申し上げましたように、それを増やしてしまうということとは避けたいと思っているんですが、今後、新たに登録を検討するご家庭や事業所等のために、子ども110番について基本情報だけでも提供できるようにしたほうがよいと考えます。個々の学校で独自に取り組んでいることもあるかもしれませんが、対応マニュアルや手引等を市ホームページに載せている自治体もあります。本市においても、子ども110番がどのような活動かを広く市民に知っていただくことで地域の安心の拠点が増えることにつながると思いますが、いかがでしょうか。

○教育部長(小高幸男部長) 現在、まなび支援センターのホームページに、子ども110番の家のマニュアルが掲載されている千葉県警察のホームページのリンクを載せて周知しているところでございます。今後は、さらに周知を図るため、各学校のホームページにも、このリンクを掲載できるように検討してまいります。

○16番(渡辺厚子議員) この件では私、過去の質問で、既存の対応マニュアル等をリンクして見られるようにしてはどうかという話をしたんですが、今のお話ですと、現在、まなび支援センターからつながるようになってきているというお話だったんですが、まなび支援センターのホームページにアクセスする人は、そう多くはないんじゃないかなと思うんですね。なので、各学校のホームページであれば、さらなる周知が図られるものだと思いますので、ぜひ進めていってください。

次に、子どもの見守り事業についてお伺ひします。

見守りスポットの整備や見守り人の推進はどのように取り組んでおられるのでしょうか。

○**教育部長(小高幸男部長)** 見守りスポットの整備や見守り人の推進については、協定に基づき、締結先の企業が取り組んでおりますが、見守り人の推進については、市においても広報等を行っております。

○**16番(渡辺厚子議員)** 企業さんと市の両方でやっているということ、広報なども行っているということなんですが、先ほどのご答弁では、協力者となる見守り人を増やすことが課題であるということでした。市民への周知は具体的にどのように行っているのでしょうか。

○**教育部長(小高幸男部長)** 市民への周知といたしましては、市ホームページや広報きさらづを活用して情報発信しているほか、就学時健診においては、チラシを配布し、案内を行っております。今後は、さらなる周知を図るため、市公式LINEを活用した案内を行う予定でございます。

○**16番(渡辺厚子議員)** 分かりました。

市の公式LINEも活用をする予定だということですので、皆さんに知っていただくことからまず取り組んでいただきたいと思います。この事業はまだ始まったばかりですので、今後の展開を注視していきたいと思います。

次に、ここで、中項目1点目の通学路の安全確保全般に関わる通学路の情報についてお聞きしたいんですけれども、通学路がどこにあるのか、地域住民に認識していただくことで様々な安全対策やツールの活用が一層進むのではないかと思います。子ども110番の家や見守りサービスの見守り人の拡大のほかにも、危険ブロック塀の所有者が、自宅が通学路に面していることと、市の補助金を活用した改修を検討するかもしれません。通学路に関する情報の公開については、どのようにお考えでしょうか。

○**教育部長(小高幸男部長)** 通学路に関する情報の公開につきましては、様々な課題もあることから、慎重に検討する必要があると考えております。

○**16番(渡辺厚子議員)** 様々な課題という中には、通学路の情報を悪用する悪い輩が現れるというリスクなどもあるんだらうと推察いたします。確認ですが、実際に現在、学校独自で通学路をホームページに載せたり、地域に知らせている学校はありませんか。

○**教育部長(小高幸男部長)** ホームページに、道路の横断の仕方など注意事項をお知らせするために通学路のページを設けている学校や、自治会の回覧板を活用して地域住民の方に通学路を周知している学校もございます。

○**16番(渡辺厚子議員)** そういう事例もあるということが分かりました。悪用されかねないリスクを抱えつつも、先ほど申し上げたような地域への共有で活かせる情報であるとも思いますので、通学路がより安心・安全になっていくために、慎重かつ効果的な情報共有の検討をお願いいたします。

次に、中項目2、SNS利用の安全対策について伺います。

ご答弁では、技術的なアクセス制限に加え、各学校では、SNSをはじめ、インターネット利用に関する情報モラル教育に取り組んでいるというお答えでしたが、社会的な問題となっている被害状況を見ましても、現在の取組で安全対策は十分であるのかどうか、その点についていかがお考えでしょうか。

○**教育部長(小高幸男部長)** 子どもたちをネット犯罪から守るために、引き続き、インターネット技術の進展に対応した安全対策に取り組んでまいりたいと考えております。

○16番(渡辺厚子議員) ネット環境の進化とともに、子どもたちが犯罪に巻き込まれるリスクはどんどん大きくなっていくものと思います。そうした中で、個人の意識だけでなく、犯罪につながってしまう入り口で守るためのツールは活用に値するのではないのでしょうか。導入の実現性について調査研究していくとおっしゃられましたが、どのような形で検討されるのでしょうか。

○教育部長(小高幸男部長) 学校の意見も聴取しながら、まなび支援センターが中心となって協議検討してまいります。

○16番(渡辺厚子議員) 学校の意見も聴くことは、とても大事なことだと思います。

ネット環境ということでは、個人で所有しているスマートフォンが一番利用されていると思います。ですので、学校からの貸与タブレットとは別に、児童生徒個人が使っているスマートフォン等について、各家庭が保護者の判断で導入できるような案内をするというのは可能でしょうか。

○教育部長(小高幸男部長) 個人所有のパソコンやスマートフォンへのインストールにつきましては、各学校から保護者へ紹介したいと考えております。

○16番(渡辺厚子議員) 先ほど、東京都が行った調査で子どものスマホ利用を制限する機能を使う保護者の割合が減っているという結果を紹介いたしましたが、現状では、大人が思っている以上に、どの子もネット犯罪の危険にさらされているという意味では、学校と家庭の両面で子どもたちを守る対策を強化できるように、有効な情報共有はぜひともお願いいたします。

次に、中項目3点目、学校施設の整備について再質問いたします。

校舎の洋式トイレについてですが、ご答弁で、第3次基本計画終了時の校舎の洋式化率は小学校で約81%、中学校で約87%、全体で約83%を見込んでいるということでした。これは、あともう少しというところまで来ているわけなのですが、残りの約2割に該当する学校の児童生徒が気の毒でなりません。何度も言いますが、ぜひとも加速化をしてほしいのです。具体的には、現在、年度に小中1校ずつとしている工事を2校ずつにするなどの方策は取れないのでしょうか。

○資産管理部長(品川昭和部長) 校舎のトイレの洋式化につきましては、喫緊の課題として認識をしておりますので、次期基本計画において、第3次基本計画を上回るペースでの整備となりますよう、実現に向けて関係各課と調整してまいります。

○16番(渡辺厚子議員) 第3次基本計画を上回るペースの整備となるよう、実現に向けて調整したいというお言葉をいただきましたので、実現を期待したいと思っております。

しかしながら、その次期基本計画においてでさえも、どうしても後のほうになってしまう学校がある場合、そこに対して、例えば和式便器の上に後付けタイプの洋式トイレを備え付けるなどの対応も考えられると思いますが、本格工事までの暫定的な措置としての可能性はいかがでしょうか。

○資産管理部長(品川昭和部長) 和式便器の上に後付けタイプの洋式トイレの暫定的な設置が可能であるかにつきましては、不特定多数の児童生徒の使用を考えた場合、材質がプラスチック製のため耐久性が不足することや、洗浄時の水が回らないため、汚物が付着しやすく汚れやすいなどの課題が想定されます。これらの状況を踏まえながら、設置につきましては、現場である学校の意見を聞き取りながら、教育部と連携し、調査研究してまいります。

以上でございます。

○16番(渡辺厚子議員) おっしゃるとおり、耐久性や衛生面での課題はあるかもしれませんが。市販の製品の強度や価格などもよく調査していただきながら、学校と相談の上、子どもたちが安心し

てトイレを利用できる環境を整えていただきますよう、よろしくお願いいたします。

次に、遊具、運動設備等についてお伺いします。

先ほどのご答弁で、修繕及び更新については、点検結果による危険な度合いや、日々寄せられる不具合の報告により適宜対応しているということでした。それでは、昨年度はどうだったのか、状況と対応について教えてください。

○**資産管理部長(品川昭和部長)** 昨年度の状況でございますが、点検結果により危険度の一番高いE判定の遊具等は、遊具につきましては小学校2件、中学校2件の報告があり、2件は既に対応済みで、残りの2件につきましては、改善に向け現在対応中でございます。体育館の体育器具につきましては、該当がございませんでした。

なお、E判定よりも危険度の低いC及びD判定の遊具等につきましても、使用頻度の高いものについては、状況により修繕を実施しております。また、日々寄せられる遊具等の不具合報告の対応状況でございますが、小学校で5件、中学校で3件の報告がございましたが、全て対応済みでございます。

以上でございます。

○**16番(渡辺厚子議員)** 詳しいご説明をお聞きしまして安心いたしました。今後とも、子どもたちが安心して使っていけるように、適切な点検と早めの対応に努めてください。

次に、防火シャッターについてお伺いします。

危害防止装置の付いていない防火シャッターは、小学校は4校で17基、中学校は6校で30基残っているというご答弁でした。今後、合計47基もの改善をするには計画を立てて整備していく必要があると思いますが、改善に向けた検討はどのようなスケジュールで進められるのでしょうか。

○**資産管理部長(品川昭和部長)** 改善に向けた検討についてのスケジュールにつきましては、まずは47基を改善するための予算を把握した上で、夏休みの工事工程を想定し、複数年での整備など、予算の平準化を考慮しながら事業化に向け検討してまいります。

以上でございます。

○**16番(渡辺厚子議員)** 工事工程や予算の面では、先ほども最初の質問で触れましたように、既存の設備に後付けできるよう開発された装置は電源が不要なので、複雑な電気工事や大がかりな現状工事も不要なため、工事日数の大幅な低減が可能であると聞いております。そうしたことも含めまして、今後の整備計画においては、様々な調査を踏まえて、低予算で早期の整備ができるよう、着実に検討して行ってください。

最後になりますが、子どもたちの安心・安全のために、家庭、地域、学校、行政など、全ての大人が知恵と力を合わせていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。